

救
助
ニ
関
ス
ル
件

0685

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

大正十年十月四日午後

三時四十分
五時五十分

三笠發
海軍省着

海軍大臣

三笠艦長

海軍省
10.10

魚雷頭部炸藥五個、掃海炸藥十八個、同火藥
罐三十二個、魚雷用同火藥五個、十一日乃至十七
日間海水ニ浸潤シ引揚後危險ト認メタルニ付火
藥加工品取扱規約第二三六條ニ依リ海中ニ投

棄セリ

右報告又

0686

大正十年九月十六日午前

七時四十分三
七時五十分海軍省着
榮五戰隊司令官

海軍大臣
軍令部長

軍令部

秘

秘

待

可

書

三笠、テルネイ、湾ヨリ浦塩ニ向テ進航、途中
今朝午前六時三十分「アスコルド」海峡ニ於テ
「ウシコヴスカ」列島南端ノ暗礁ニ擱坐シ少
浸水アリ調査中

十六日

發電先

大臣、軍令部長

第三艦隊司令長官

舞鏡長官

0687

軍務局



大正十年九月十六日

午前九時五分三
午後〇時三十分海軍省着
第五戰隊司令官

海軍大臣
軍令部長

三笠坐礁第二報

三笠艦首部ヲ以テ礁上小暗岩アル淺處ニ坐礁
前部水雷室同糧食倉庫下二重底ニ浸水アルモ
其程度甚クシカラス艦ノ状態比較的良好ニシテ
自力若クハ運輸部曳船ノ援助ヲ求メ離礁レ
得ルヤモ知レス

十六日午前八時

發電先

大臣軍令部長
第三艦隊長官
舞鎮長官

0688

大正十年九月十六日午後七時十五分三
八時三十五分海軍省着
第 五 號

海軍次官

第五戰隊司令官

第四報

(豊)

軍務局長
10.8.17

0690

第一課
第二課

一、三笠左舷船首艦底、ビルヂキール下方十呎、
部ニ於テ、ビーム二十四番ヨリ六十番迄、間

突岩、為外舷亀裂シテ、幅二呎長サ六十呎

此部内飯多少損傷、結果浸水ニ至ル者ト認ム

右舷ニ於テ、糧食庫下方、ビルヂキール、下十呎

於テ突岩、為、リベット一本離脱シ四五本弛

アルヲ認ムルモ大体ニ於テ中部並右舷艦底ハ甚

ク損傷ナク、少クモ内舷ハ無事ト見込

二、艦ノ状態變化維持備四ノ以テ、艦尾ヲ同クニテ

艦首ヲ繫留ス海上平穩ニテ今ノ処心配ナキモ萬一ノ
場合ヲ慮リ艦首浮揚ニ必要ナル、バルヂ、ポンツ
等ヲ浦塹ニ於テ入手方盡力中又使用シ得ヘキ
クレイン、並唧筒船等ニ付テモ聞合中ナルカ當テハ
ナラス

0691

- 三、艦首中共部ノ黒色火薬庫三十顆彈火薬庫ニ
於ケル漏水ハ手動唧筒等ヲ排水シ得ル程度ニテ其
他ノ不浸水區劃ニハ補修中
- 四、左舷ノ破孔部被破内誌毛布其他ヲ以テ外部リ
充填中然ル後浸水部ノ排水ヲ行ハ艦底狀況
一層明瞭トナル見込ニ付浚橋又ハ栗橋ノ何レカヲ
至急派遣方御取計ヲ乞フ

午後六時

兼電先
次官、第三艦隊長官、
舞鎮長官、三水戦司令官

軍務局

大正十年九月十七日午前八時五分三十分 笠原 第五戰隊司令官

海軍次官

第五報

一 艦ノ状況変化無し

潜水検査、結果艦首附近岩礁ノ模様及其艦底ニ及ホセル影響等左ノ如シ

(イ) 左舷、ビーム六十、水線下二十呎、ビームチキル

ニ近ク艦底ヲ持上クル一大突岩アリ

前電、外鏡大亀裂竝艦、右舷傾斜モ

同岩ニ依ルモノト認めラル引却、場合爆

藥等ニ依リ上部ヲ切取ル必要アリモ知レズ

(ロ) 左舷、ビーム九、二十二附近艦底下ニ接シ

0692

各一突岩アルモ外板ヲ破損スルニ至ラス

但シ、ビーム九ノ前後ニ亘リ艦底ニ小亀裂

アリ、(イ)ノ大突岩ニ依ルモノト察セラル

(イ) 右ノ外左舷側ニ艦底ニ接觸セル岩礁ナシ

殊ニ浸水セル八糧火藥庫ノ下方ハ無事ナリ

(ニ) キールラインノ附近及其右方ニ於テ多数ノ

小突岩一面ニ亘リテ艦底ニ接シ、先令ニ檢

査スル能ハサルモ二重底部ノ内板ヲ破損シ

アラサルハ略々確實ナリ但シ艦首重量ハ此

辺ニテ支ヘラレアルカ如シ

(ホ) 右舷「ビーム」三十一、三十四、四十一附近艦底下

ニ接シ各一突岩アルモ外板ヲ破損スルニ至ラ

ス只三十ノ部ニ前電通銀一本離脱四五本

弛ミアルニ過キス

(ハ) 艦ノ左方ハ岩礁多ク且淺シ右方ニ岩礁アルモ水深四尋乃至七尋少シク艦側ヲ離ルレハ更ニ深シ

(ト) 左舷、ビーム内方へ、凹ミ各八寸、破孔アリ之亦(イ)ノ大突岩ニ依ルモノノ如シ

二、浸水箇所及其程度前方ヨリ順次ニ左、如レ(イ) 第二糧食庫及將醬油庫浸水甚タシク其影響直上ノ冷蔵庫庫ニ及ブ第一項(ロ)ノ小亀裂ニ依ルモノノ如シ

(ロ) 第三(右舷)及第四(左舷)糧食庫、第一項(イ)ノ破孔ニ依ルモノノ如ク排水簡單ノ見込、第三、第四ノ影響ヲ受ケタル漏水ト認ムル

0694

(一) 左舷ニ於ケル水雷科倉庫第六第七八糧食

庫八糧彈火藥庫何レモ浸水僅少

第一項(イ)ノ大突岩ニ依ルニ重底内飯ノ小破

損ト判断ス

(二) 黒色火藥庫三十糧火藥庫何レモ鄰接

區劃ヨリノ漏水ヲ手動唧筒一臺ヲ排水

シ得ル程度

三、明日「バルヂ」又「ポニン」數隻ヲ以テ艦首部

沈下防止ニ備フルト同時ニ彈火藥其ノ他ノ

重量物ヲ前後平均ニ卸ス予定之カ為軍ノ

好意ニ依リ新高丸、扇海丸、潮海丸來援ノ

旨又浸水箇所ニ外部ヨリ手當ヲ加ヘ排水シ

試ミ得ル見込

午後十二時

電先次官、三艦隊長官、舞鏡長官

三水戰司令官、富士艦長

軍務局

大正十年九月十七日午後

一時四十分三十分
第一師團司令部

海軍次官

第五戰隊司令官

第六報

- 一、三笠狀況變化ナシ、天候晴、風向東南東（艦尾）
- 力一、海上平穩、干満差約二呎
- 二、目下重量物搬出中、彈藥、大部ハ新高丸
- 又ハ富士ニ送ル予定

十七日

急電先

次官、第三艦隊長官、舞鏡長官、
第三水雷戰隊司令官、富士艦長

0696



大正十年九月十八日午前

一時十分三十分 七時十分 海軍省着

第五戰隊司令官

海軍次官



尚徳



第七報

一、三笠状態特ニ変化ナキモ右舷第五第七糧食
 庫及八粒彈庫右舷側ノ影響ヲ受ケテ少シク
 漏水ス、ウチンクヲ経テ主送水管ニ依リ排水レ
 得ル見込

二、第四糧食庫及醬油庫、排水ヲ行フト同時ニ
 左舷前部主送水管ノ損傷部（之カ為左舷
 側排水今迄ノ處不可能）ヲモ確メ得ル見込

三、日暮レテ濃霧襲來レ今尚霽トス風向東カ一
 内外海上平穩ナルモ少シク長溝アリ

0697

富士、明朝六時來着、予定

十七日午後十二時

0698

發電先

次官、第三艦隊司令長官、舞鶴長官、
第三水雷戦隊司令官、富士艦長



大正十年九月十八日午後五時五分合三
五時四十分海軍省着

第五戰隊司令官

海軍次官

第八報



一、昨夜來、長濤ニ依リ三笠船体左舷前部ノ大
 突岩ヨリ離脱セル結果今朝四時頃ヨリ左舷ニ
 傾斜ヲ始メ九時頃五度四分三ニ至ル其後變
 化ナシ艦首ノ方向北六十五度ニシ吃水前部右
 十九呎二吋左十九呎七吋後部右三十呎左三十
 三呎二吋中央部左右乾舷差七呎五吋

二、露國海軍部ノ好意ヲ以テ提供セル汽艇二(内
 一徑五吋、吸水管四ノ有スル唧筒艇)大型ハ
 ルヂ二(三百屯、五十屯)昨日夜半來着尚今後

要スレハ「クレン」浮船渠等ヲモ提供スハシト

三、富士今朝六時來援、前項「バルゲ」ヲ以テ艦首

浮送力増加、為準備中又艦首三本艦尾

一本、繫止索ヲ追加ス

四、三笠彈藥搬出中（富士ニ搭載）船体左舷ニ

傾斜、為前電第ニ項ノ處置不可能ニ付八糧

火藥庫ノ破孔閉塞ニ着手ス右舷糧食庫等ハ

露國叩筒船ニ依リ排水シ得ル見込天候曇

風向北力一今尚長濤アリ少シク動揺ヲ感スルモ

別條ナシ

正午

糸電先

次官、第三艦隊司令官、第三水雷戰隊司令官

0700

軍務局

第九報

海軍次官

第五戰隊司令官

大正十年九月十九日午後

二時三十分三
七時四十分海軍省着

0701

少多船首吃水
増也

一、三笠状態变化ナシ昨日午後北、風力二乃至三
 夕刻迄浸水セシモ艦首、左右移動約一度傾度、
 变化四分、一度内外、過キ又目下艦首方向北
 六十五度西傾斜五度四分、三吃水前部右一九二
 左二〇、五中央部右二一三、左二九、二、後部二九、七
 左三三、九、天候曇風向北、西力二長濤アリ

二、昨日來作業ヲ繼續シ富士、潜水夫ト共ニ極力
 破孔、位置迄程迄検査中、
 彈藥、浸水部ニ於ケルモノ、外本日搬出終了、

予定

奉電先

次官、第三艦隊司令長官
海軍大臣、三水戦司令官

十九日正午

0702

軍務局

大正十年九月三十日 前
三五〇 三笠 二号
七上五 海軍局 着

第五戦隊司令部 官

海軍次官

第十報

本日三笠潜水検査、結果左如し

(一) 第四報、大亀裂ハ第五報、(二) 大実岩、頭部

カ、ヒルギキ、此ノ下奇ニ活ツテ外殻ニ長大ナル凹ニ深

サ内底ニ達シ諸所ニ小亀裂アリシコト生シタ結果

其下方約十呎ニ於ケル鉄板結々目ノ離レルモノニ

シテ此部内底ニハ損傷ナシ

(四) 前項、凹ニハ内底ヲ圧シテ其ノリヤトシテ切損シテ

リ恐ニク内底ニ小亀裂ヲモ生セシテ無難全降

ハ概大菜津等ニ浸水セシラレタレド然レ但共

下
カ
カ

11 20
9. 20
田 附

田 附

0703

10. 8. 20
新 報 社

程度ハ外般同様程微ナルヘト考入

(ハ) 船側ニ往電外「ピー山七番ヨリ六十番ニ至ル間各

所ニ「リベ」トシ緩ミテ外般結キ目ノヤリ破目ヲ生シテ

ルモノアリ 其一部本日煤除済

二、本午午後長浪増大且北風強吹、為彈菜振出

作業進捗セズ為一日ヲ要スル見込

夕刻ヨリ風向急変南々西トナル風力三乃至四一時

天候夜悪、模様見ヘシカ其後漸次偏東風ニ

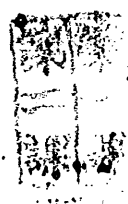
變リ風力物減退シツアリ

天候曇云長浪為已ニ但船体状態等別ニ異

變ヲ認メス

十知山子

軍務局



藤田

大正十年九月二十日午前七時三十分
春日

臨時三笠救難隊

海軍省着

海軍大臣
軍令部長

春日、淀橋ヲ率井、明二十一日午前七時三笠遭
難地着、豫定

0705

軍務局

第十一報

大正十年九月二十日午後

二時三十分
七時十分
海軍省 着

海軍次官

第五戰隊司令官

郵務局 10. 8. 2

0706

一、今朝天明ヨリ再ヒ荒模様トナリ南東ノ風

カ三乃至四海上波高ノ舟艇ノ航行困難ニ付

一笠重量物搬出並潜水作業等不可能ニ付

第三課

トレテ艦内補強及應急修理材料準備ニ

從事中

二、艦ノ傾斜六度長浪ニ依リ艦首部左舷ニ移

動ノ為若干損傷部ヲ擴大スル虞アルモ大

体ニ於テ異状ナシ天候曇濛氣アリ晴雨計示

度七六のりり少シツツ下降ス附近ニ小低氣壓

10. 21
9. 21
田部

停滯シアルモノノ如シ

奈電光

次官、第三艦隊長官、舞鉄急官、
第三水雷戦隊司令官、春日艦長

二十日正午

0707

軍務局

大正十年九月二十日午後九時五分 三笠發
十一時十五分 海軍着

第五戰隊司令官

海軍次官

第十二報



本日午後三時頃ヨリ急ニ荒天トナリ三笠艦尾ヨリ猛烈

ナル風浪ヲ受ケ(風向東方力七内外)之力為バルゴ其他

舟艇ニ若干ノ損害アリタルモ船体ニ格別ノ異常ナシ

午後六時頃ヨリ風向北ニ衰シ天候恢復ノ兆ヲ呈ス

下風力五乃至六艦ノ傾斜五度半

二十日午後八時

奉電先 次官 第三艦隊長官 舞鎮長官

第三水雷戰隊司令官 春日艦長

第三課



0708

軍務局

第十三報

海軍次官

第五戰隊司令官

大正十年九月二十一日午後

二時十五分
八時二十分

三笠
海軍者着

0709

第一課
第二課

一昨夜來艦首方向ヨリノ風相当ニ強烈ナリニモ三笠

別ニ異狀ヲ認マス目下風向西力六内外天候晴海

上浪高キモ三笠附近島嶼ニ庇護セラレ比較的平

穩但シ南方ヨリノ長浪今尚止マス艦首方向北六

十四度四分一西傾斜五度四分一吃水前部右

二二左二三・六中部右二・六左一八・三後部右

二七・二左三〇・二前部吃水ノ増加ハ昨日來ノ荒

天ニ依リ水深深キ所ニ少シク後退セル結果ト認マ

ル

二臨時三笠救難隊、内春日日本日午前九時来着直
二損所検査艦首部補強工事艦ノ繫止索増加
等ニ着手ス淀橋ハ速力ノ関係ニ依リ遅レテ夕刻
入港ノ豫定

發電先

次官

第三艦隊長官

第三水雷戦隊司令官

舞鎮長官

0710

軍務局

第十四報

海軍次官

大正十年九月

二十一日午後十一時十五分
二十二日午前八時三十分

第五戦隊司令官

三笠
海軍省着

本日午後三笠艦首左舷側潜水検査、結果
前電、大突岩ニ依ル損障相当ニ夥シキヲ認ム
但シ長浪、為作業困難ニテ其位置程度等ハ未
ク正確ニ知ルヲ得ス

二、午後七時淀橋着天候曇リ風向北力三乃至四
長浪尚多クアリ
午後十時

發電先

次官、第三艦隊長官

舞鎮長官

第三水雷戦隊司令官

0711

准

算

セシ之ヲ要領ヲ所要人員、材料等ト共ニ電報セシ度又臨時

世軍工仲班ヨリノ夜接ノ時期又程度ニ関シテ別ノ水雷部隊

司令官往電ニテ承知ノ通ナリ 且シ損害等以外ニ大ニ注意テ

御

引取見込ナリ又見込

冬期運難地附近ノ天候等ヲ考慮シ之カ引取ト多大ノ注カ
ト経テ有トシテ要スル材等ノ見込ヲ併シ電報乙度

官房第一一五號電報ノ二

西野

第ニ航母

長官

次官

九月二十一日發電濟
午三時三十分

次ノ通等立見候引合之度ニ電報セシ

7

8

0713

大正十年九月二十三日

午前十時十分
午後一時十分

三
五
分

第五戰隊司令官

海軍次官

第十五報

(1) 臨救報(臨時三笠救難隊報告、略) 第二號

一、艦底検査、結果損傷、模様、大体既知、通

左舷側、大亀裂、中一呎乃至二呎不規則

裂損ナルモ内底ヲ破損セバ其ノ上方大突若

頭部ニ依ル凹ミニシテ深サ三呎乃至四呎七寸

第一罐室、下方ニ「リベット」折損ニヨリ浸水部

修理容易ノ見込右舷側「リベット」、離脱折損

ニヨリ輕微ナル損傷ニ止ルカ如シ但シ「キール」附近若

ニ遮ラレ検査不可能

三、九龍二大突岩ハ一日、荒天ニヨリ船体後退、為
テ十番「ビーム」前方四呎船側ヲ離ルルニ呎位
置ニアリ其ノ後方ハ概シテ浸水深キモ第一罐室
ノ下七十番「ビーム」附近ニ船底ヲ離ルル約四呎丈
約八呎ノ尖岩「ブル」認ム

三、艦内作業トシテハ揚錨機室補強工事（今夜終
了、見込）小唧筒振付（明日中終了、見込）

第六「ウチンダス」内方防水（本日未了ナリシモ可能
ノ見込）並ニ必要材料搬入ニ従事ス又艦首方向
ニ繫止錨一ヲ増加ス

四、明日作業豫定尤、如シ
水雷室大罐室内支柱増設「ウチンダス」防水脚

0715

筒掘村第一罐室、下尖岩除去「ビルジキール」
、重下部切取海底、模様検査續行

(四)

本日海上平穩ナルモ、長溝アリ富士ハ、ホ
ン、唧筒工作等必要材料準備、為午後
浦塩ニ回航又同艦要否ニ関シテハ明朝福島
大佐着、上電報又二十一日午後十二時

今電先

次官 第三艦隊長官

舞鎮長官

第三水雷戦隊司令官

0716

軍務局

大正十年九月二十四日

午前八時三十分

海軍省 第三筆

第五戰隊司令官

知事

海軍次官

第十六報

臨救報第三號

一 本日前電、作業終了、左舷側「ビーム」六十卷、

大突岩及第一罐室下、突岩ハ何長約四カ、

一ヲ爆破除去ス、水雷室及第一罐室内補強工事

一部施行ハ着「ウイングス」浸水部填塞終了

左舷八艙彈庫及黒色火薬庫附近ニ小唧筒据

付、今夜中ニ結了、上排水ヲ試ルル予定(三十報)

火薬庫内漏水排去済

二 明日予定作業

下

0717

9. 26 田

本日未了ノモノ續行並ニ第三糧食庫ノ上冷港
庫排水

只三笠異狀ナク本日更ニ右舷船尾ニ繫止錨ヲ増加
ス天候未ク充分ニ回復セズ北ノ風力ニ乃至三、長清
アリ

八、福島大佐今朝白露ニテ着艦ノ状態並ニ所要
材料等ニ就キ調査中

二、白露載炭ノ為本日浦塩ニ回航ス

二十三日午後十一時

舟電先 次官 第三艦隊長官 舞鎮長官

第三水雷戦隊司令官

0718

軍務局

大正十年九月二十四日午後十一時十五分三
二十五日午前七時四十五分海軍省着

第五戰隊司令官

海軍次官

第十七報

(1) 臨救義勇隊

一、本日、作業

前電ニ突岩ノ爆破除去續行(残り二分トナル)

左舷水雷火藥庫排水(漏水少キ事ヲ確得リ)

左舷八粒彈庫及黑色火藥庫排水(漏水大)

但シ後者ニ有力ナル唧筒ヲ用テ排水可能見込

補強工事續行

二、明日ノ予定

未了作業續行、外左右舷水雷火藥庫冷蔵

0719

庫及ラム區劃排水

(四) 三笠具狀ナシ春日所要材料調達、為午前浦塩
回航午後帰還ス。材料(浦塩ニ於テ相當ニ入手レ
得ラルルガ如シ)サハ整ヘハ案外速ニ引却シ得ルヲ知ル
之カ為福島大佐本日浦塩ニ出張明日富士テ帰還
ノ予定
天候晴久振リテ海上平穩トナリシモ夜ニ入り少シク
長濤アリ

發電先

次官、第三艦隊長官、舞鏡長官、
第三水雷戦隊司令官

二十四日午後十時

0720

軍務局

大正十年九月二十五日午後九時五分
三笠

第五戰隊司令官

海軍大臣

第五戰隊第百五十号

三笠、狀況面シテハ概子既電ノ通ニシテ、
過般来ノ風波ニ

ヨリ多少損傷部擴大、形跡アルモ大体ニ於テハ比較

的、良好ノ状態ヲ保持シアルカ故ニ今後猛烈ナル荒天ニ際

シテ船体破壊等、場合アラハ免ニ角然ラサレハ船首

部浮泛力増大ニ必要ナルコトハ並ニ漏水排除ニ要スル即

簡、準備出来次第引卸ヲ試ミ得ル見込ニテ其期

日ニ就テハ諸材料調達新調ノ模様ヲ見テ具體的

方案ト共ニ更ニ電報ス

第二課

第九

R

軍務局 10. 8. 26

0721

大正十年九月二十六日午後一時四十五分
六時三十分
三笠
海軍省着

第五戰隊司令官

海軍次官

第十八報

昨夜来、猛烈ナル長濤ニ依リ三笠右舷艦首

ニ於テ最モ弱キ繫止索切斷シ船体約ニ米後

退、結果吃水ハ今朝前後共約二十七呎トナレリ

艦首方向北七十度西傾斜五度半目下其位

置ヲ保持シアルモ今後風波ノ状況如何ニ依リ

此儘離礁スルヤモ計ラレズ其退場合ニハ自力ヲ

以テ附近適宜ノ位置ニ避泊、上應急處置ヲ施

ス予定

今朝来降雨激シク風向北附近力ニ乃至三ナルモ晴

0722

雨計頻ニ降り目下七五。耗低氣圧中心近キモ
ノ、如シ

發電先

次官、舞鎮長官、

第三艦隊長官、

第三水雷戦隊司令官

0723

起案郵紙

大正十年九月十七日起案

起案者
捺印

九月十六日發付

發付掛
捺印

發付後起
案者捺印

起案郵紙(甲)

(主) 軍務局長

堀内

第一課長

待

角真

大臣

副官

次官

參事官

三浦

廣報ノアイマニシトシ

特ニシテノイハス

廣報 (二千文)

十月十九日

九月十六日
午後五時三十分
發電齊

第五回印刷命令官免

次官

三ノノ報ノ為ニシテ廣報ノイハス

番號 官房第一一〇番電報

局部	受月日	發月日
官房		
軍務		
人事		
艦政		
機關		
醫務		
經理		
法務		
技本		
造兵		
教育		
臨建		
水路		
軍令		

0724

叔難^ク出^テ浦^ヲ離^レ、至^ル者^ハ出^テ動^カル^ヲ爲^ス、^ク判^シテ
 廟^ノ時^期、今^後、主^柄執^リ、名^シ司^令長^官ト^判所[、]一^任セ^ス、^テ出^ル
 又^テ、^テ水^浦隊[、]世^軍上^作班[、]一^部ヲ^對シ^テ、^出遣^ス、^出浦^ヲ爲^ス、^テ出^ル
 一^度報^セ、^テ件[、]無^難法^守、^件又^テ、^テ水^浦隊[、]一^部ヲ^對シ^テ、^出遣^ス、^出浦^ヲ爲^ス、^テ出^ル
 保^持セ^ス、^テ出^ル、^カ合^ス

0727

起案郵紙

大正十年九月十六日 起案

起案者 捺印

月

日發付

發付掛 捺印

小野

發付後起 案者捺印

起案郵紙(甲)

大正 主 軍務局長

加印

第一課長

捺印

局長 捺印

次官

副官

捺印

參事官

捺印

捺印

軍令部長 次長

電報(暗號)

捺印

大正十年九月十六日

九月十六日 午前三時五分 發電

東京小野田郵便局司令官宛

次官

三笠、大正、海潮、帰航中 九月十六日 午前六時三十分

番号 官房第一号 電報

正

正

0728

アスコンドル地峡ニ於テ、ウニコラスカガオ列島の南端淺處ニ坐礁シ前
 部中宿室同視令陣トニ重負ニ浸水アルモ甚程度甚シカラス
 航ノ状況甚好ナル年自リ又陸軍運輸部用船援助ヲ
 獲テ依リ難進ツル見込タル旨五島縣令官ヨリ報告アリ
 現狀待テ救難ノ要モアル如キモ今後ノ情况ニ依リテ臨時工作班ノ
 一部ヲ派遣セシメタル據定ニ付考慮ニ要ス度島無用資徒守
 府船不取放音日又新嘉ヲ至ルニ出動出角スル中傳報

セノ

0729

軍務局



大正十年九月十六日午後十一時、今平、
前七時十分、海軍省着

第三水雷戦隊司令官

海軍省副官

三隻救難ニ関シテハ何事ヲ扱措テモ助力スルキ
望ナルモ目下四番船引揚真最中ニテ作業ニ狂リ
生スルトキハ全部ヲ無効ニスル虞アリ相成ルヘクハ
他ヨリ救難船派遣方御配慮ラセテ

0730

起案罪紙

大正十年九月十六日起案

起案者 捺印

九月十七日發付

發付掛 捺印

小聖

發付後起 案者捺印

起案罪紙(甲)

(一) 軍務局長

第一課長

副官

參事官

大正

次官

參事官

參事官

參事官

3F 電化通知

軍務局長印

次長

第三班

電報(暗號)

大正十年九月十六日

司令長官

軍務局長

三時半了解

次官

司令官

了解

三望坐礁ノ程度輕微 十九日如キモ 情况ニ依リテ 校難ヲ必

番

一七二

局部	官房	軍務	人事	艦政	機關	醫務	經理	法務	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令	受月日	發月日

九月十六日 午後三時 分 發電濟

0731

持用

大正 年 月 日 起案

起案者 捺印

九月十九日 發付 捺印

發付掛

發付後起 案者捺印

起案罪狀(甲)

大(在)軍務局長

副官

第一課長

第二課長

參事官

大 次官

參事官

人事局

經理局

第二課長

總務部長

第三課長

第四課長

局長官定

第一課長

山口部員

東海部員

一、島嶼陸守府度下裁為之及春日淡橋口之他支所之船隻

番 官房第一〇八

局部	受月日	發月日
官房		
軍務		
人事		
艦政		
機關		
醫務		
經理		
法務		
技術		
造兵		
教育		
臨建		
水路		
聯合		

九月十九日 發電濟

經理局 10.9.17 接受

0733

暗時

シテ三全救難ノ痛成ニシテ連ニ以テ難ニ從事セル所
取計ス

ニ海制及行助ノ家定ニ之ヲ電報ス

大臣

五五五五五

官房第一〇番電報

午九時 令發電濟

一〇五五五五五

0734